

とするもので、低いパンヂール谿谷に向つて東進する道は一切通行不可能のものとして頭から撥ねつけてゐる。(ホルディチは最近また、其の著 *Gates of India* 九十七、九十八兩頁に於て、地理學者たるの權威を以て此の説を支持して居る。)然し此の最後の断定は確に當を得ないものである。何故かと云ふに、アレキサンダー麾下の將卒は往復二回に互るヒンヅクーシュ越では、交通と云ふこと以外にも様々の困難に遭遇したに相違ないが、カールブル東方の地とて排外熱の少ない處ではなく、其の後英國遠征隊も苦い經驗を嘗めたやうな處であるから、アレキサンダーの軍隊が此の方面に道を轉じて獲る所があつた筈がないからでもあり、特に又ヒンヅクーシュ越と印度越の峠を結ぶ直通街道は、事實上カールブル川にもパンヂール川にも沿うてはるなかつた、今でも沿うてはるないと云ふ動すべからざる理由もあるからである。實際、此の街道はベグラームから東南に出て間もなくパンヂール川を渡り、ニヂラオ *Nidjrao* の谷間に入り、次で越え易いアーラーサイ *Alâsai* 峠を過ぎて廣いタガオ *Tagao* の傾斜地に進み、其處からは先づ無難で美しいラマガーン *Lamaghân*